

バク通信

一三七号

令和二年九月十日発行

社会福祉法人「ゼノ」少年牧場

ゆめサポート・バク

福山市神辺町東中条7301-6

TEL (084) 960-2256

FAX (084) 960-2258

ゆめサポート・バクの半期を顧みて 其の一

感染者数が少し落ち着いているかに見えるコロナウイルスですが、未だ未知なるウイルスとして世界中に広がり半年以上が過ぎました。今後、世界史に記載されるであろう出来事の中を今生きていくという実感は持ちにくいですが、医療、文化、政治、人類学、地球環境など様々な側面から語られるようになりました。

身体的感染に注意することはもちろんですが、自らの思考や行動がどのように影響を受けているか一度冷静に振り返ることの大切さを気づかされた指摘もありました。過度な恐怖心や正義感で他人を追い詰めることのないようにすることも同時に大切にしながら働き、暮らしていかなければならないこれから…。

管理者 田頭 聖司より、この経験のない事態の連続だった半年間の報告です。



私が新型コロナウイルスへの危機感を募らせたのは、二月五日だったことを今でも鮮明に覚えています。私は理事長と関西圏の大学へ二〇二〇年度採用に向けた求人行脚をしており、大津SAで壮大な琵琶湖と暖冬を思わせる比叡山を眺めながら休憩をしていた車内で、ダイヤモンドプリンセス号での感染報道に耳を傾けていました。

「日本で広がったら大変なことになる。人道的な観点からすれば、救いの手を一刻も早くすべきだが、未知のウイルスに対応できない状況では下船の判断は難しいのかもしれない。田頭さんならこういつた時どう判断する。」思えば、このやり取りが新型コロナウイルスを身近に感じた

最初の出来事だったように思います。ただ、理事長にこの言葉をかけられた時でさえ、私は心の片隅で衛生意識の高い国内では大きな広がりにはならないだろうと都合よく理解しようとしていました。

この考えは、それから程なくして見立てが甘かったことを痛感させられる事態へと発展したことは皆さんもご承知の通りです。

新型コロナウイルス感染症による社会の大きな変化は就労部門にも目に見える形となって現れ、連日テレビ報道で取り上げられた飲食店の苦境と同じことがジェラート製造販売部門にも降りかかってきました。

イベントは軒並み中止（自粛）、卸販売先からの注文も途絶える正に想定外の事態。四月から六月の売り上げは昨年度に比べ八割も落ち込み、七月に入り若干はもち直したものの、昨年度に比べ六割減と言う厳しい状況が続いています。仕出し弁当製造部門、ウエス製造部門など新型コロナウイルス感染症の影響があまり現れていない部門があったおかげで、利用者さんの工賃原資は確保できています。網渡りのような状況が現在も続いています。

事業所では、衛生備品が決して充分でない中でもできる限りの予防措置を講じながらの運営が続ききました。緊急事態宣言を境に、職員やご家族の不安はより大きなものとなり、不安を吐露される本人やご家族に向き合いながら、開所し続ける中で次第に利用が遠のく方も出始め、笑顔にあふれていた毎日にも少しづつ変化が出てきたことに何よりも心を痛めました。



また、緊急事態宣言の発令を機に一気に職員の心にも変化が始め三密を避けることが難しい業務内容の数々に、目の前の人をほおってはおけない気持ちや使命感と、自身が感染してしまうかもしれないことへの恐怖感を必死に抑え込みながら支援する毎日でした。危機的な状況に陥らないよう踏ん張ってくれた職員、日々変化し続ける事業所の対応を快く受け止めて下さったご家族の皆様、私たち以上に大変な状況にあるはずにも関わらず、マスクや消毒液のご寄贈をいただき、支えてくださった行政や地元企業様、有志の皆様には大変勇気をいただきました。この場をお借りして、皆様に感謝をお伝えさせていただきます。「ありがとうございました。」

次号へつづく…

「マスクにひと工夫！」

生活支援員 藤井 みゆき

まだまだ暑い日が続きますが、心身共に疲弊されていらっしゃるいませんか？マスクが生活の一部になってきた今年の夏、バク自治会では変わった創作活動を行いました。マスクの着用が難しい利用者の方々にも、興味を持って頂き、「着けてみたいなく！」と思っ頂けるようなマスクはないだろうか、自治会で作ってみました。写真を切り抜いたり、自分で好きな絵を紙に書きマスクの上に貼るだけなので、いつでも着脱可能。鼻や口を自分で書いても面白い。利用者の方々も興味津々で自分書いたり、また好きな絵をマスクに貼り着けておられました。新しい生活様式の中で、このようにひと工夫して楽しみながら、健康維持を図っていききたいと思っています。



お似合い過ぎです…



ピッタリすぎて…



「スイカ割り体験！」

生活支援員 藤津 翔子

夏の空気から気温が一気に下がりがカラっとした空気に変わりましたね。それでも日中の日差しはまだまだ強く、体力が奪われそうです。熱中症対策もしっかり行い利用者さんたちと楽しい夏を送りたいと療育班では、室内で楽しめる夏の活動を考え、手作りスイカ割り体験を行いました。一発で割ることができた方や何回たたいてもなかなか割れず頑張った方もいました。それぞれ割り方が違い、自己流で楽しまれていました。割れるようにみんなで応援したり、割れた時には拍手を送ったりみんなで一つになれたスイカ割り体験でした。感染症のこともあって、本物のスイカではできませんでしたがこれもまた夏の思い出の一つになったのではないのでしょうか。



それっ！

次回は本物のスイカでやりたいねっ！



「残暑を乗り切ろう！」

生活支援員 柴垣 瑞穂

残暑が厳しい日々が続いていますが、十人十色で作業する利用者さん達もまだまだ汗をかきながらお弁当作りを頑張ってくれています。製造室はエアコンを稼働させ温度管理をしています。作業中は白衣を着ている為、とっても暑いんですよ。厳しい暑さが続くと私達も食事を簡単なもので済ませたり、冷たい物や口当たりの良いものばかりになったりと、栄養が偏りがちになってしまいます。そんな時こそ日々の食事内容を見直し栄養バランスを整えれば残暑バテの予防や改善に繋がります。特に豚肉と大豆がおすすめです。更にネギやニンニクなどを一緒に摂れば効果があります。十人十色のお弁当の中にも豚肉や大豆、ニンニクを使った献立も沢山あります。体にいい物をしっかり食べて残暑バテを吹き飛ばしましょう。

慎重に、ていねいに…



利用者さん達も自分たちで作ったお弁当を食べて毎日の作業を頑張ってくれています！



隅々までしっかり磨きます！



「オアシス…？」

生活支援員 月又 光子

もう、いい加減にしてえ！と叫びたくなるほどに酷暑だった今夏。明日からは涼しくなるみたい！と期待していた天気予報は何度も覆され、午前七時には三十度近くなりジリジリとした日差しに気力も体力も奪われそうでした。山に囲まれ自然豊かな場所にある畑ですが日陰がなく今年こそは！と梅雨入り前にテントを設置しました。とはいえ、骨組みだけの簡易なもので、屋根にシート、側面にはよしずを立てかけ、ゴーヤのグリーンカーテンが屋根まで伸びて完成となりました！

梅雨が明けたとたん三度前後の日が続き三〇分も作業すると汗が噴き出て、本当に滝のように流れてきます。「休〜憩〜！」の声がかかると皆が「あち〜」と言いながらテントに駆け込んでいきます。たった一枚のシート屋根の日陰でもその差は歴然！まさに砂漠の中のオアシスの如くホッとできます。ここで、ミネラル補給タブレットと冷たいお茶、冷やしたタオルでクールダウンします。テントからゴーヤの葉っぱ越しに眺める青い空や山の緑がまぶしく、ピーヒョロロと羽を広げて旋回するトンビや、どんどん伸びていく飛行機雲を眺めている時、目を細め気持ちよさそうに風を感じている利用者さんの横顔を見ている時など時間が止まったような不思議な瞬間が訪れます。「よし〜！あと三〇分頑張ろう！」のかけ声で現実に戻るのですが、エネルギーが補充されているのを感じます！

まだまだ残暑が厳しそうですが、頑張っていきたいと思っています。



ホッと一息…
風が気持ちいいなあ〜



「アルコジャーノ移動販売車で販売開始！！」

サービス管理責任者 松岡 肖幸

今年の夏を振り返りますと、例年とは違うアルコジャーノの夏でした。コロナウイルスの影響で、例年出店していたイベントは全て中止となり昨年は四月〜七月に一三回あった販売も今年は、一回と販売機会がほぼない状態です。一方で、ギフト販売は例年の一五〇%を超える売り上げとなりました。ご購入くださいました皆様、誠にありがとうございました。

こういった状況の中で、八月は販売の機会を二度いただくことが出来ました。一つは、法人内の事業所でもありますが、やまびこ学園様、もう一つは、社会福祉法人共働福祉会久松共働センター様にご依頼をいただき販売に行かせていただきました。販売は、感染症対策を行い、マスク・手袋着用、飛沫防止用のシートを販売口に設置し、ジェラート提供をさせていただきます。

そこでお客様とのやりとりが非常に楽しく、ジェラートを嬉しそうに受け取られる時など、直接表情が見られる販売ってやっぱりいいなとしみじみ感じました。今後も出来る対策をしつつ、ご依頼をいただければ、ジェラートの販売へと行かせていただこうと思います。ジェラートが食べたい、外出ができない時期にいつもと違う雰囲気味わいたいと言う方々、販売車アルコジャーノ号で販売にお伺いいたしますので是非、ご相談ください。



しっかり距離をとってのご購入！



対策はばっちりです！！

飛沫防止シートで
しっかりカバー！

バクの「コマ

「カラーがええんよ〜！」

「ゼノ」少年牧場のホームページがリニューアルされたことを皆さんご存じでしょうか。

実は、昨年刷新され、より見やすくそして、スタイリッシュなっています。

もちろん、バクのページもリニューアルされました。

そんな中、八月のある日…利用者さんから突然こんな相談をいただきました…

「バク通信はカラーがええんよ〜。所長さん、なんでカラーいけんのん？」

当然、カラーで印刷できれば良いのですが…大量に印刷するためやはりコストが気かりで…「ごめんね。カラーで印刷したものは、ロビーに拡大して掲示してるじゃろ〜。あれじゃダメかな〜？カラーはお金が高いんよ〜。」と…私はもともとらしい言い訳をしてみました。

すると、利用者さんは「パソコンでみよ〜たんよ〜。今は見れんのんよ〜。」と…

ハッとさせられました。ホームページがリニューアルされる際に、バク通信のアーカイブがシステムの都合上、閲覧できなくなっていたことをそのままにしていたことを…

この出来事の後私はすぐに、ホームページを管理している部署の方に相談し、九月から過去のバク通信が閲覧できるようアーカイブを復活させました。

些細な言葉に耳を傾けることの大切さを、忙しさの中で忘れていたことを教えてくれたこの利用者さんとのやり取りは私の中で忘れられない思い出になりそうです。

今後の予定

- 9月19日(土) 土曜開所
- 9月26日(土) 土曜開所
- 10月3日(土) 土曜開所

